

令和6年度 東新潟中学校学校経営の基本方針

1 目指す学校像

「一人一人の子どもが生き生き学び成長を実感できる地域とともにある学校」

視点①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的推進

②「未来の創り手」、「日本型ウエルビーイング」の育成

③多様な個性や思考を生かし、主体的に将来を切り拓く力をつけるための取組

④コミュニティ・スクールを中核とした社会に開かれた教育課程の編成

⑤特色のある教育実践を重ねることによる学校文化の創造

2 スクール・ポリシー

「力の東新」

3 東新潟中学校の教育目標・重点目標（目指す生徒の姿・付けたい力）

「たくましく生きる生徒」

・自分で考え行動しよう

・認め合い支え合い高め合おう

4 指導の重点（戦略）

・資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びのある授業づくりと個への支援

・豊かな人間性と社会性を育成する指導体制の充実

・多様性や個性を認め合い伸長するインクルーシブ教育システムの推進

・未来を拓く確かな力を身に付けさせるためのカリキュラム・マネジメントの工夫

・地域・家庭（PTA活動）と連携・協働し生徒を成長させる取組の工夫

5 核となる具体的な手立て（戦術） ※かつこ内は主な場面を示した

・ICT機器（iPad、大型モニターなど）を活用した教育活動の充実（全教育活動）

・生徒理解をもとにした学習支援の継続・連携・強化（放課後、長期休業、リモート）

・授業・特別活動等を通じた「成長を促す生徒指導」と「支持的風土」の促進（全教育活動）

・一人一人の成長を確かなものとするためのグループ担任制の実施（1・2学年）

・自らの成長を実感するためのキャリアノートの活用（学活等の振り返り時）

・一人一人の主体的な学びを支える東新スタンダード・東新タイムの重視（授業・帰りの会）

・タイムリーな情報発信による連携強化と信頼確保（メール、たより、HP）

・評価方法、評価の基準を明らかにした取組の推進（全教育活動）

・生徒の主体性を育むための取組の工夫（CS会議、地域連携、特別活動）

6 教職員の基本姿勢

・主体的に学ぶ教師のもとで、主体的に学ぶ生徒が育つという考えに基づき、自己研鑽を行う。

（授業改革、特別活動、生徒指導等の研修参加、最新の指導法等のアップデート、教育に関わらずに多様な学び など）

・子どもの変容を見逃さず問題の早期発見・早期対応を心がける。（いじめ防止・不登校解消へ向けた組織的な取組）

・共に学ぶ・共に働く・謙虚な姿勢で臨む。（生徒理解・同僚性の向上・共感傾聴、同一行動、支持的風土、熟議）

・個と集団の働き改革を積極的に推進する。（ワーク・ライフ・バランス）

7 指導の構え

学校は生徒の確かな成長を促す場でありたいと、教員ならば誰もが思う。しかしながら、生徒は我々大人が思うようなタイミングや見込みで変容を見せることは多くはない。また、手をかけた分だけ成長するというわけでもない。指導内容が間違っていないくとも、その生徒にとって受け入れられないことは多い。一方で、ある時かけた言葉が、その生徒にとって大切な人生のターニングポイントになることもある。ゆえに私たちは、子どもたちに常に真摯に向き合い、よりよい生き方をしたいという願いをもち、ある時は毅然と、そしてある時は子どもの状態やその行動の背景も踏まえていねいな対応を心掛けたい。

特に、このコロナ禍の3年間で、感染症の対応、GIGA スクール構想の前倒、生成 AI の進化、不登校生徒数の増加、多様な個性や思考の尊重、さらには自然災害の頻発など社会もそして学校を取り巻く状況も変化している。

私たちは、この激動の時代をたくましく生き抜いていける力をどの生徒にも付けさせてやりたい。それには、私たちが変化を厭わないしなやかな感性をもち、これまで取り組んできたすべての教育活動の目的、方策、成果について見つめなおし、子どもの成長を促すための学校づくりを進めいくことが肝要である。

(1) 職員研修を通じた教師力の向上により、一人一人の子どもの成長につなげよう。

一人一人の教職員の教師力が向上することは、生徒ならびに保護者の信頼を得ることになる。例えば、ICT機器を使用したギガスクール構想が推進される中、新たなことに挑戦し、授業スキルを上げたい。

- 研究推進委員会が中核となり、個の教師力や組織力の向上を推進する。
- 単位時間や単元での生徒の学びをデザインし、わかる授業・できる授業を積み重ねる。
- 一人一人の生徒が成長を実感するためのキャリアノートの活用を進める。
- 特別活動や学校行事、総合的な学習の時間（キャリア教育、地域貢献など）を通して、主体性、協働性、創造性を育む。

(2) 安心安全な学校をめざして、認め合い支え合い高め合う集団になろう。

一人一人の子どもが安心して通える学校であることは、すべての教育活動の基盤である。一人一人の成長過程の悩みに寄り添い、適切な指導支援を心がけたい。

- 常日頃から子どもの成長を話題として、一人一人の可能性や持ち味が伸長するように心がける。
- 子どもの変化を見逃さず、早期発見・早期対応を心がける。
- ささやかな問題や懸念でも速やかに情報を共有し、複数対応、チーム対応を心がけよる。
- 一人一人の生徒、保護者、地域の声に耳を傾け、速やかに誠意をもって対応する。
- 一人一人の学力保障については、個のニーズを踏まえて、組織的に進める。※目標が未達成な生徒をどう頑張らせるのか等、補充的な学習、家庭学習の支援への工夫

(3) 新たなアイデアを積極的に出し合い、果敢に挑戦する集団になろう。

校務分掌については、それぞれの担当が責任をもってその役割を果たしていきたい。前年度の反省に立ち、改善を提案し、それを多くの目で吟味して実行に移す。「限られた時間で、最大の効果」という考えを基本として持続可能な教育課程をつくるカリキュラム・マネジメントを推進する。

- 実行性のあるカリキュラム・マネジメントを推進する。
- 「目的」と「方法」を吟味してこれまでの提案を見直す。
- よりよい提案をするために見通しをもって早めに計画を立てる。
- 自分のアイデアを積極的に提案する。

(4) 一人一人の生徒が多様な場で活躍できる、活躍する支援体制の構築と実践を進めよう。

中学生の段階は、私たち大人が想像するよりも、些細なことに悩み、もがいている状況にあるという基本的な考え方のもと、独り立ちできるための自信や能力を身に付けさせる経験をさせたい。

- 一人一人の生徒が、集団のリーダーとして活躍できる場を意図的計画的に設定し、自らの可能性に自信がもてるように支援する。
- 学校生活での課題を解決するために、自らのことを自らで決めるという主体的な態度を育てるための、子ども参画の取組を推進する。
- スポーツや文化的な活動（部活動・クラブの活動）への大会参加、各種コンクール、発表会、展覧会等へ参加を推奨し、そこでの活躍により自らの可能性に自信がもてるように支援する。
- 共通の教育相談を待たず、常に一人一人の生徒の心情の変化、機微をとらえ、一人一人の生徒から相談を受けることができる人間関係の構築に努める。
- ペップトーク的な手法を身に付けて、生徒のやる気、元気を高めるように働きかける。

(5) 学校を応援してくれる関係機関・団体と良好な関係を築き、豊かな教育環境の整備に努めよう。

生徒はこの地域で生まれ育ち、将来、地域を支える人材になります。全市で地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）がスタートし3年目を迎えます。学校の応援団の思いや考えを受け止め、地域や家庭の協力を得ながらそれぞれの役割を果たした教育に取り組んでいこう。

- 学校運営協議会を前提として、学校の教育方針、教育課程などについて保護者・地域の理解と協力が得られるように努める。
- PTA、同窓生、地域の方々のマンパワーを活用して、多様な活動を進める。
- 子ども、保護者、地域の意見や思いをよりよい子どもの成長につなげる。
- 学校に足を運んでもらう機会や生徒が地域に出て活動する機会を充実させる。